

経営課題解決のためのDX指南書

あらゆる業務プロセスを 自動で可視化する方法 とは？



はじめに

経営課題解決のためのDX実現には、現場と管理・経営層が同じ目線を持つ必要があります。

そして既存業務のどこに負荷がかかっていて、どのような改善が必要なのか見える化することも必要不可欠です。

一方「業務フローが多すぎて各フローの負荷を把握しきれない」「リソースが足りず、DX実現が難しい」という企業も少なくないでしょう。

そこで、この資料ではDXによって**経営課題を解決できた企業だけが知るノウハウや、業務プロセス可視化の方法**を紹介します。

DX実現にあたり何から始めればよいかわからないという方の参考になれば幸いです。

CONTENTS

はじめに	P02
DX実現のためにもっとも重要なこと	P03
改善すべき業務を個別に整理していくために必要なこと	P04
企業のDX実現に立ちはだかる問題	P05
どんな企業でも既存業務を定量的に把握できる方法	P06
DXの効果を最大化する方法	P07

DX実現のためにもっとも重要なこと

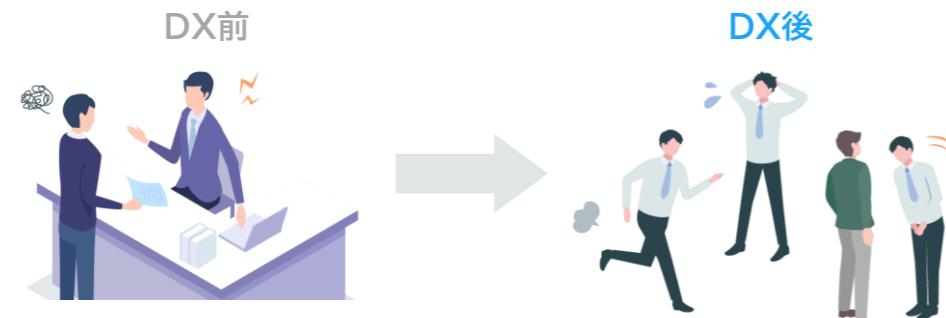
経営課題解決のためのDX実現には、現場と管理・経営層が同じ目線で現状把握や課題解決に取り組める環境を用意する必要があります。

現場と管理・経営層の目線が揃っていないままDXを推進すると、結果として単にシステムを導入しただけになり、根本的な問題は解消されない場合もあります。

また、管理・経営層が現場の状況を理解できていない場合、適切なリソース配分が行われず、DX実現プロジェクトの遅延を招く場合もあるでしょう。

そのため、DX実現において現場と管理・経営層が同じ目線を持つには、まず「既存業務の把握と課題の共有」から始める必要があります。

現場と管理・経営層の目線が合っていない場合



DXがただのシステム導入で終わってしまう

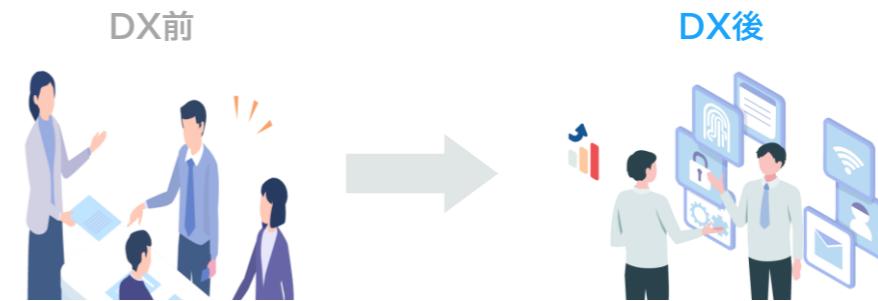
現場

管理・経営層からのビジョン共有や、
具体的指示が足りていない。

管理・経営層

現場がDXの重要性を理解して
おらず、主体性も足りていない。

現場と管理・経営層の目線が合っている場合



DXにより本質的な業務改善が実現できる

現場

管理・経営層からDXについてビジョ
ン共有や具体的指示があるため、納
得感を持っている。

管理・経営層

現場がDXの意義を理解し推進して
くれるおかげで、経営状況からもDX
の効果を感じられる。

現場と管理・経営層の目線を合わせるにはまず、既存業務を定量的に把握する必要がある

改善すべき業務を個別に整理していくために必要なこと

現場と管理・経営層が同じ目線をもってDX実現に向けた取り組みを実施するには、改善の対象となり得るそれぞれ業務の中身を整理していくことが重要です。

そこで、ここでは既存業務を整理して、課題を見つけていくための方法を紹介します。

DX実現のための既存業務整理方法

01 業務プロセス全体像を把握する



ある業務のうち、どのプロセスがDXの対象になり得るか把握する。そのうえで、業務ごとの棚卸をする。

02 課題を特定する



作業にかかる時間をはじめとして、定量的に課題を抽出する。

03 課題解決の優先順位を決める



業務全体に与える影響の大きさを考慮しつつ、DXの優先順位をつけていく。

既存業務を細分化し、業務全体を定量的に把握し、どの課題から解決すべきか検討することが重要

企業のDX実現に立ちはだかる問題

DXを実現するためには、そもそも既存業務の中でどの業務のどのプロセスを改善すべきなのか明確にする必要があります。しかし、多くの企業で「どの業務に負荷がかかっているかわからない」「DX推進に多くのリソースを使えない」「情報が断片化している」といった問題を抱えており、DX実現の阻害要因となっています。

DX実現の阻害要因

01



どの業務に負荷がかかっているかわからない

業務量が多くすぎてそれぞれのフローを把握できず、負荷の多い業務も見分けられず、業務全体像の把握が難しい。

02



DX推進に多くのリソースを使えない

既存業務とDX推進を両立するため、利用可能なリソースに限りがある。

03



情報が断片化している

部門間で異なるシステムを使用している場合データ統合が困難となりDXを阻害する要因となり得る。

DX実現のために何をすべきかわからない=現状を把握する術がない

どんな企業でも既存業務を定量的に把握できる方法

ここまでご紹介してきた通り、DXに必要な既存業務の可視化には様々な障害があり、その障害を乗り越えるのには時間と手間がかかります。

そこで近年DX推進時に使われるようになっているのが「プロセスマイニングツール」です。

プロセスマイニングツールとは、現在利用している業務システムのログデータを分析し、業務プロセスの可視化を行うものです。

社内業務が多岐に渡る場合やDXリソースが足りない場合でも、既存業務を定量的に可視化できます。

プロセスマイニングツール活用前



プロセスマイニングツール活用後



DXが必要な既存業務を自動かつ確実に把握できる

プロセスマイニングツールは社内のすべての業務の課題を自動で定量的に可視化する

DXの効果を最大化する方法

プロセスマイニングツールは、業務プロセスの可視化や課題抽出が可能なツールです。活用することで多くの企業がその恩恵を受けられるでしょう。

そこからさらにDXの効果を継続的に最大化していくには、業務プロセス見直しのための仕組みづくりに取り組む必要があります。

企業の成長に合わせ、業務プロセスも都度最適化していくことが大切です。

業務プロセスの仕組みを柔軟に変更できる体制を整えれば、DXによる効果を持続的に得ることができます。

DXの効果を最大化する方法

プロセスマイニングツールの活用



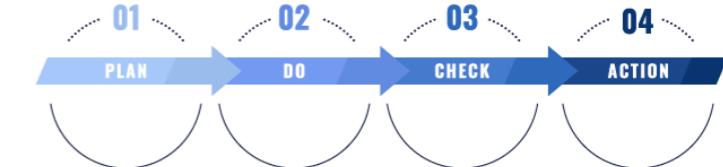
業務プロセス・業務課題を自動で可視化する。

BPM(ビジネスプロセスマネジメント) ツールの活用



理想の業務プロセスをBPMツールで描く。

ワークフローシステムの活用

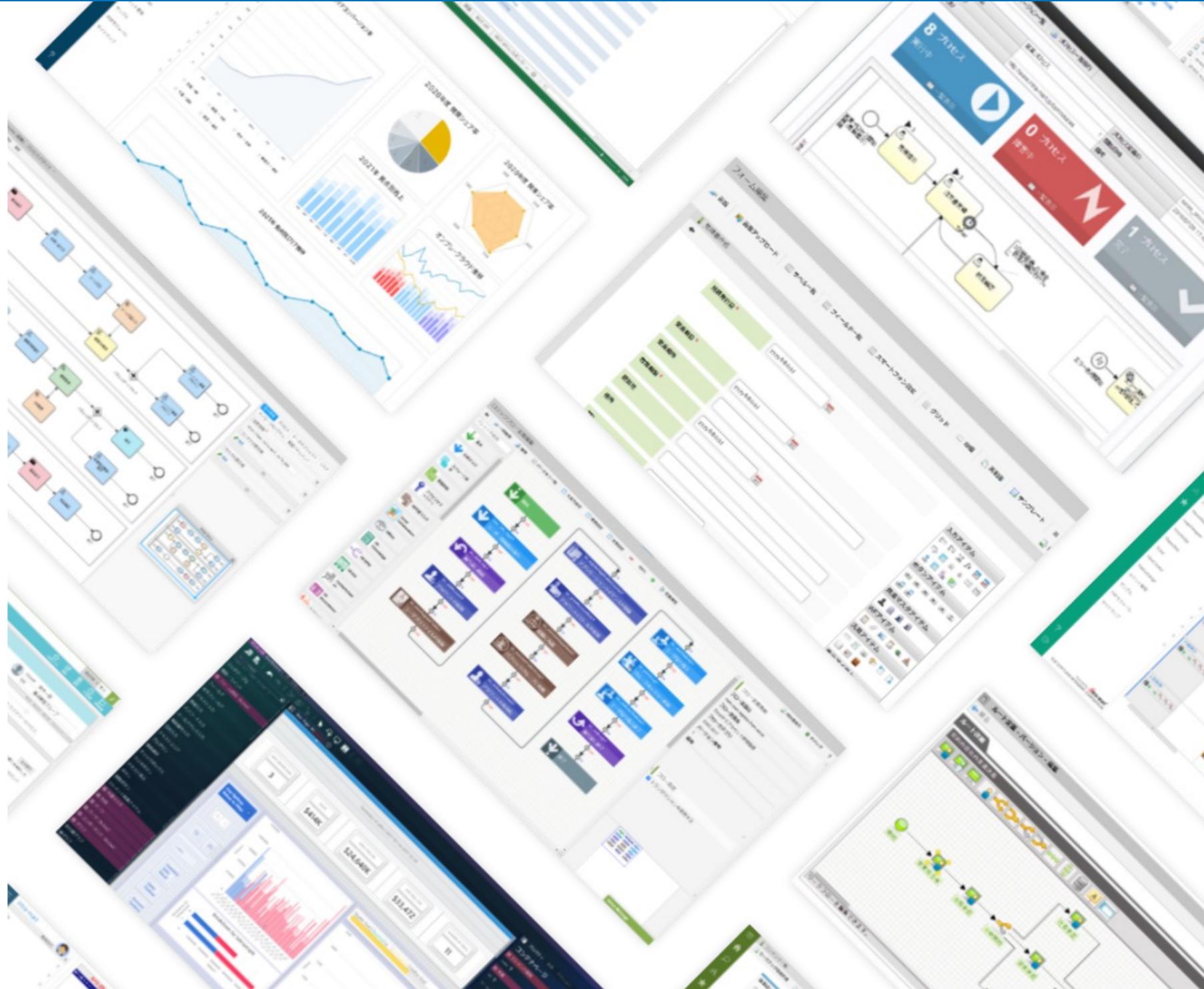


業務プロセスをシステム化する。

DXの効果を最大化するには、ツールなども活用しながら
業務プロセスを継続的に改善できる仕組みを作ることが重要



サービス紹介



コンセプト



企業独自の価値をデジタル技術で素早く向上させ、 ビジネスモデルの変革を推進

人々がそれぞれの個性を持つように、企業にも独自の個性や価値が存在します。過去、企業は基幹システムの導入などのIT投資で全体最適化を追求してきましたが、DXの観点からは、各企業の得意分野や最適解を持つことが明らかになっており、企業独自の価値を向上させるためのデジタル技術の活用が必要になっています。

そこで近年、デジタル技術の活用をスピーディーに進めるため、DX人材を育成し、AIやローコードなどの先進技術を駆使した素早い内製開発でデジタル投資の強化を検討する企業が増えています。

このような背景から、イントラマートは先進的なデジタル技術の活用によるエンタープライズアプリケーション開発をサポートするプラットフォームや、SaaS、コンサルティング、教育支援、システム構築などの幅広いサービスを提供しています。これにより、従業員独自のアイデアを手軽にデジタル価値へと昇華させ、顧客や従業員の満足度向上も伴ったビジネスモデルの変革を迅速に推進できます。

イントラマートは、デジタル技術を活用して企業独自の価値を一層際立たせ、それらが連携し共創しながら未来に向けた新たな価値を創出できる多様な社会の実現を目指しています。



エンタープライズ・ローコードプラットフォーム intra-mart Accel Platform

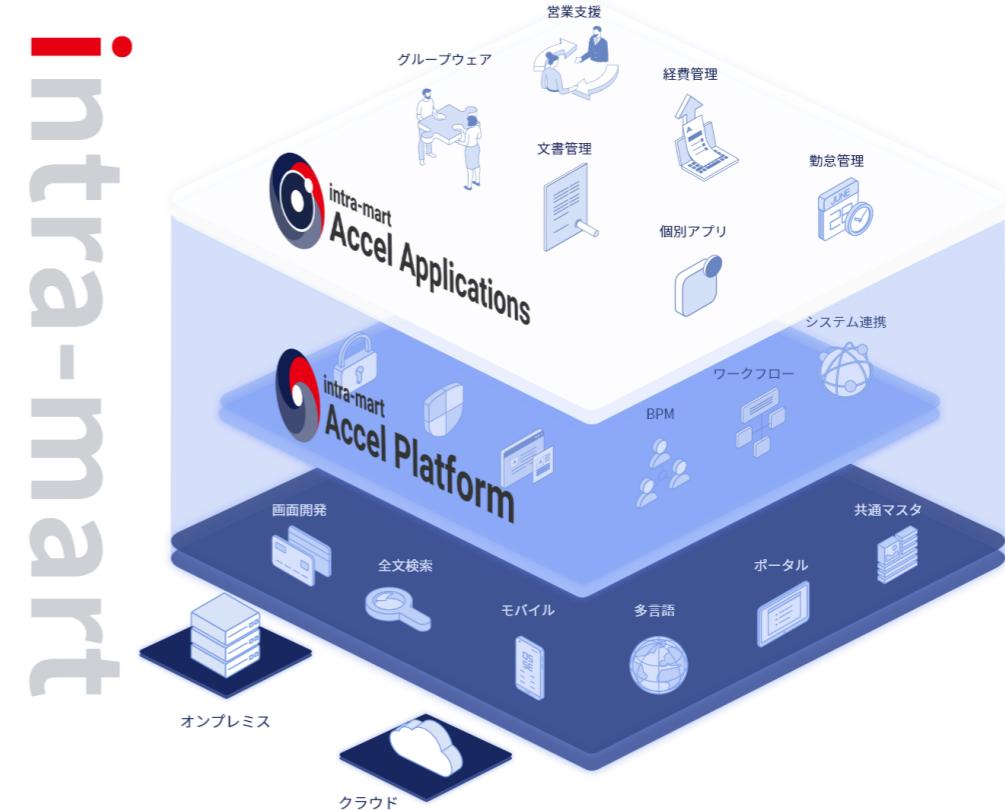
デジタル業務改革、もっと手軽に
エンタープライズ・ローコードプラットフォームで実現

intra-martとは？

企業の成長には、効率的な業務プロセスが欠かせません。基幹システムの導入により、SoR(System of Record)領域での業務効率化は進みましたが、実際の現場ではサイロ型のシステムで業務が分断され非効率なままで、従業員の満足度も上がりません。

しかし、一般的なローコードツールでは、システム開発・運用で業務効率化を実現しようとしても、企業全体での活用には物足りなさを感じることがあります。また、全体最適の業務改革は複数の他部門も関与するため、進めるのが難しい側面もあります。

イントラマートが提供する「intra-mart Accel Platform」は業務の効率化をスピーディーに実現可能なエンタープライズ・ローコードプラットフォームであり、全体最適化されたシステムの開発・運用が可能です。



トータルサポートサービス IM-QuickActivate



包括的なDX支援をトータルサポートするサービス「IM-QuickActivate」

お客様自身でクイックにDXや業務プロセス改革を推進していくよう、現状業務プロセスの可視化から「あるべき業務プロセスの策定」をトータルで支援するサービスメニュー「IM-QuickActivate」をご提供しております。DX人材の育成研修、業務の見える化からあるべき姿に変えていく変革メソッドの提供、デジタルプロセス化を実現する「intra-mart」のローコード開発を含む製品ソリューションをセットで提供し、お客様自身が継続的かつクイックにDX業務改革を推進していくよう支援していくトータルサポートサービスです。



人材スキルの習得



業務要件定義



システム要件定義



開発・実装・テスト



運用・改善

DX人材育成

DX導入メソッド

DX実行

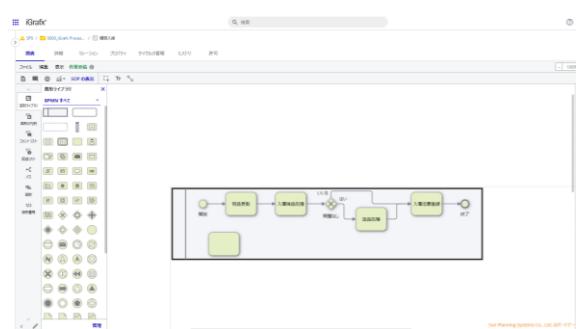
プロセスマイニングツール「iGrafx」(アイグラフィックス)



iGrafxは業務最適化、業務プロセスと関連情報の可視化、一元管理と分析のプラットフォームです。自由度の高いモデリングツールを用いて、業務プロセス図の階層化や業務構造図、システム間のデータの流れ、カスタマージャーニーマップなど様々なモデリングにより業務プロセスの情報分析を行うことができます。プロセスマイニングによりシステムのイベントログから業務プロセスを可視化します。

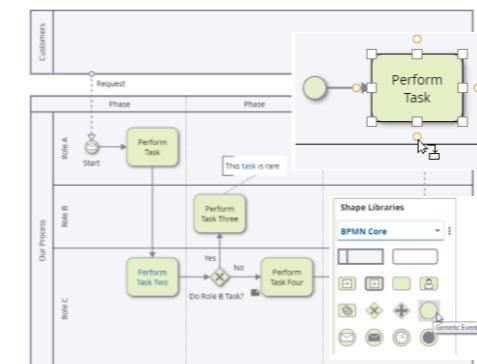
3つの機能

01 業務プロセスの可視化



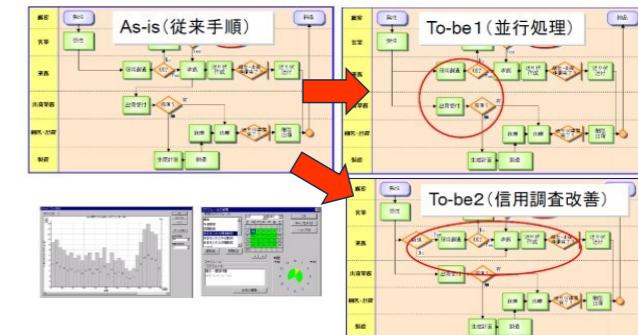
ブラウザ上で誰でも簡単に本格的な BPMN2.0準拠のフローチャートや、 ジャーニーマップ等の様々な形式での 業務可視化表現ができます。

02 業務プロセスのモデリング



現状プロセスを出発点として、あるべきプロセスを分析・設計できます。作成したフローチャートにはプロセスフローにはドキュメントやURLリンクが設定できます。

03 プロセスシミュレーション



リソース・作業時間・業務量・業務の流れ等を画面で簡単に変更でき、それに応じたシミュレーション結果が表示され、レポート出力機能も備えています。

プロセスマイニングツール「SAP Signavio」



SAP Signavioはビジネスプロセス管理（BPM）のための直感的で包括的なプロセスマイニングのソリューションです。ログデータから実際の業務プロセスを抽出・可視化し、その実行結果をさまざまな角度から分析でき、企業にとって最適な業務プロセスを実装するためのインサイトを提供します。業務プロセスを簡単なシート定義で記述できる機能が提供されており、実測値に基づいたシミュレーション機能によりボトルネックの可視化などを行ながら全体最適の業務プロセスをデザインすることができます。

SAP Signavio Process Manager

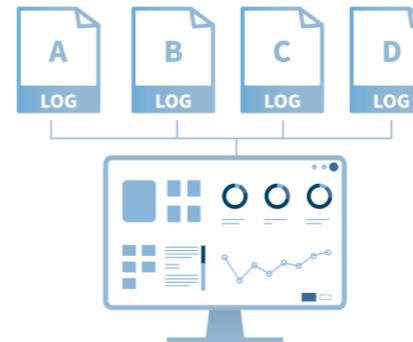


プロセスの定義、改訂、比較、シミュレーションなどの機能を提供します。コスト、サイクルタイム、リソース、ボトルネックに関する情報を取得し、最適なTo Beモデルの構築を支援します。

主な機能

- ・ ビジネスプロセスのモデル化
- ・ プロセスのシミュレーションと比較
- ・ プロセスの相関関係の明確化
- ・ 共通理解の構築
- ・ プロセスレポートの作成

SAP Signavio Process Intelligence



システムログから抽出した実行データに基づいて、プロセス実行状況の分析、改善への意思決定を支援します。

主な機能

- ・ 実際のプロセス実行を可視化
- ・ 短時間でインサイトを獲得し、根本原因を追求
- ・ プロセスの連携とコンプライアンスの向上
- ・ 組織全体でのコラボレーションの改善
- ・ インサイトを行動につなげて、迅速な改善を実現

参考

さらに詳細を知りたい方は以下サイトをご覧ください



製品一覧

<https://www.intra-mart.jp/products/>

intra-martの製品・サービスの詳細をご確認いただけます。



導入事例

<https://www.intra-mart.jp/case-study/>

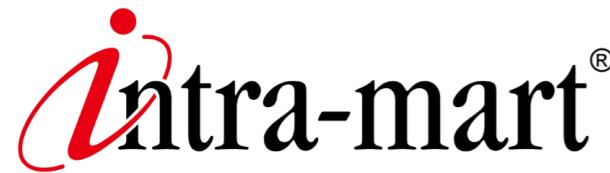
intra-martをご利用いただいているお客様の導入事例をご紹介しています。



セミナー・イベント

<https://www.intra-mart.jp/seminar/>

製品の紹介や事例、業務課題の解決方法など、オンラインセミナーをご視聴いただけます。



株式会社NTTデータ イントラマート
www.intra-mart.jp

お問い合わせフォーム:<https://www.intra-mart.jp/inquiry.html>

E-Mail:contact@intra-mart.jp

- 掲載内容は2024年6月現在のものです。
- 各製品・サービスの仕様、デザインなどは、改良のため予告なく一部変更することがあります。
- 記載の会社名・製品名などは、弊社および各社の商標または登録商標です。